

研 修 会 報 告 書

令和 6 年 7 月

総務文教常任委員会

- 1 研修日時・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 2 講 師・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 3 テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 4 研修概要及びまとめ・・・・・・・・・・P 1
- 5 各委員報告書・・・・・・・・・・・・・・・・P 2～P 8

1 研修日時

令和6年7月9日(火)

午後1時30分～午後3時30分

2 講師

合同会社萬創社

代表社員 福本雅之氏

3 研修テーマ

『地域公共交通について』



4 研修概要及びまとめ

＜地域公共交通の目指すところ＞

住民の生活や社会活動に必要な移動の提供のために実現すべき「地域公共交通の性能や仕様」をどのように表現し、達成するのか。

⇒ネットワークとサービスレベル、それぞれの質と量の組み合わせ

今回の研修を通じ、

- 何らかの対策をしているというような事業ベースではなく、地域住民がお出かけしやすいまちづくりをしていくという根本の政策目的を間違わないようにしなければならない。
- お出かけしやすい地域をつくることは、地域経済の循環にもつながり、公共交通への投資は地域活性化につながる。
- 交通弱者として高齢者対策に目がいきがちであるが、車を持たない若者もお出かけが不便であることは認識すべきであり、送迎によって成り立っていることを美談にしてはならない。また、通学の不便性が、若者が町を出ていく要因の一つになっていることを認識すべきである。
- 路線バスについて、サービスレベル（運行本数等）が低い状態で維持しても「不便な公共交通」と認識されるだけである。状況によっては路線の再編なども通じ。「あのバス停からは1時間に1本バスが走っている」というように認識されるような、一定のサービスレベルを持ったバス路線を整備すべき。
- タクシー補助、デマンド交通は便利な反面非効率なシステムであり、利用がのびた場合経費の増大のみならず、運転手等公共交通にかかる負荷も大きくなる。一定のサービスレベルをもったバス路線との組み合わせなどを通じ、公共交通ネットワークを形成し、繰り返しになるが市民にとって「お出かけしやすい地域」を作っていくことが重要である。

ことを学んだ。

5 各委員報告書

研修報告書

総務文教常任委員会委員長 藤 尾 潔

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「地域公共交通について」 講 師：合同会社萬創社 代表社員 福 本 雅 之 氏
日 時	令和6年7月9日（火） 午後1時30分～
場 所	加東市役所 第1委員会室
研修の感想	加東市においては、自動車を持たない方の外出機会の確保のため、地域公共交通の対策が急務となっている。反面、財政面や事業者の人的資源を中心とした経営資源の観点から、すべての市民の要求に対応して自由な移動を確保するというのも困難である。今日の研修は、何に焦点を当てて公共交通政策を考えていく上で非常に参考になった。 加東市においても同様の傾向がみられるが、高齢者の免許保有率も上がってきており、「車を運転できない高齢者」と一くくりにすることは難しい。ただ、運転を負担に感じる方も多い一方でやめられない現状、また一度自動車を保有して自分の都合で自由に移動できる環境にいれば、そこが参照点となって運転をやめるハードルは高くなる。 それを行政がどこまでカバーし、お出かけしやすい加東市を作っていくか、総合的なビジョンが必要であると感じた。 また、加東市が行っているデマンド交通については、効率の悪いシステムであることも指摘があった。効率が悪いからダメなわけではないが、こういった分野に効果的に使っていくべきか 慎重に検討していく必要があるように感じた。デマンド交通を基軸にした交通体系の構築には無理がある。 また、路線バスや市街地循環バスについて、一時間に一本の運行を行うことで成果が上がっている事例の報告もあった。紹介のあった岐阜県関市の視察なども必要があれば検討すべきだと思う。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会副委員長 別 府 み ど り

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「地域公共交通について」 講 師：合同会社萬創社 代表社員 福 本 雅 之 氏
日 時	令和 6 年 7 月 9 日（火） 午後 1 時 3 0 分～
場 所	加東市役所 第 1 委員会室
研修の感想	研修では、高齢者のみに特化した対策ではなく、現代社会や移動手段の変化を踏まえた、若い世代への利用を考えた取組が必要であると理解した。また、「おでかけしやすさ」の定義を「生活の豊かさ」と表現されていたのもとても興味深いことだった。おでかけしやすい地域かどうか、そもそもの交通に必要なもの、足りないものをチェックできているかどうか。今ある公共交通を維持することのためにやっていたはいけない。その場所にバスが走っていれば OK ではなく、使う人が行けて帰ってこれるかの視点で調査する。また、「行ける・行けない表」の作成の提案は参考になった。中学校区あたりから、目的地への達成ができるかどうかマルバツ表を作成してみる。始業時間、診察時間、列車時刻に合うかなどまで検討してみる。ここでの財政負担の考えは、1 人を運ぶことへの財政負担をみる。こうして、地域をよく把握し、メリハリのある公共交通ネットワークを構築することが大切である。 デマンド交通では、利用率があがらなくても、認知率をあげる、つまり、「公共交通がある」ということを知ってもらうことの重要性も勉強になった。 研修で紹介された沼津市の取組なども研究しながら、加東市の公共交通の在り方に役立てていきたい。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員 長 谷 川 幹 雄

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「地域公共交通について」 講 師：合同会社萬創社 代表社員 福 本 雅 之 氏
日 時	令和6年7月9日（火） 午後1時30分～
場 所	加東市役所 第1委員会室
研修の感想	講師先生は、まずその地域の公共交通に乗車して、交通形態を把握してから講演をされているとお聞きし、自らは自家用車を持っていないこと、自家用車がなくても移動できるところに住居をかまえているとお聞きした。その地域にあった公共施策を実施することが重要であるとの話しであったが、色々な自治体があり一概にこれで大丈夫という取組はないのかもしれないが、我が市に於いてはどの形態が一番最良なのかなかなか先が見えていないように思えた。 地域公共交通は地産地消とのことで、公共交通機関単体では黒字にならなくても、利用者が地域で経済活動することで地域経済が活性化すれば公共交通を公的に支えることは合理的であり、そのために地域内の消費を外へ逃がさないことこれが地産地消になる。地域外から消費を呼び込む観光や域外輸出で地域の中で経済を回すことであるとのことであったが、これができれば市も住みよくなるのだろう。 おでかけしやすさを高めるために、地域内の公共交通ネットワークサービスレベルのメリハリをつけること。幹線の創出として、限られた路線で、運行便数を確保して便利と思われる幹線軸を作って「市民にこの路線はバスがそれなりに走っている」と認識させることが重要であり、支線の対応は、スクール対応・高齢者外出支援(自主運行バス・タクシーを活用したデマンド型交通・コミュニティバス等)で取組を進めているが、非常にわかりやすい内容であるが、実際にはどのような形態の運行がよいのか暗中模索しているのが市の運行計画のようである。いつまでも車社会で行けるはずもないので、いつでも、だれでもが乗れる運行形態になるのはいつのことになるのであろう。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員 小 松 志 津 雄

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「地域公共交通について」 講 師：合同会社萬創社 代表社員 福 本 雅 之 氏
日 時	令和6年7月9日（火） 午後1時30分～
場 所	加東市役所 第1委員会室
研修の感想	○公共交通は地方鉄道やバスの利用者が減少し赤字で路線を廃止する事業所が増えてきている ・マイカーを利用している人口が増加している ・高齢者のマイカー運転が多くなっている ・マイカーは好きな時間に好きな格好で移動ができる ○家庭のひとりが一台保有していると車にかかる家庭負担額が収入の10%以上費やしているので、公共交通を利用することによって家庭負担が軽くなる ○3割の人は車をつかえない ・免許を持たないこども、高校生 ・免許を返納した高齢者 ・身体的経済的理由 ・ケガや病気 ○公共交通で高校へ通学できない地区は人口減少が加速して高校生だけでなく親も合わせて3人の若年層減少につながっている ○外出は人生、社会を豊かにし、外出しやすい地域でなければ消滅していく ○公共交通機関単体では赤字でも、利用者が地元でお金を使うことで地元経済が活性化すれば公共交通を公的に支えることは合理的である ・地域内の消費を外へ逃がさない ・地域外の消費を呼び込む ○外出しやすさを高めるには公共交通ネットワークにサービスレベルのメリハリをつける ・幹線軸は運行便数を確保してこの路線は利用しやすいと認識できるように作る ・支線はスクール対応、高齢者外出支援の状況に応じて効率的、柔軟に作る ○外出しやすさは住民の生活の豊かさや、地域の持続可能性に影響を与える ○外出しやすさを高めるには地域公共交通が有効な手段 ○地域公共交通は単体の採算性で見るとではなく、地域への波及効果も含めて見る ■減少している公共交通を活用しながら利便性の高いデマンド型交通の構築を目指す研修であった

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員 松 本 美 和 子

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「地域公共交通について」 講 師：合同会社萬創社 代表社員 福 本 雅 之 氏
日 時	令和6年7月9日（火） 午後1時30分～
場 所	加東市役所 第1委員会室
研修の感想	今回の研修は非常に有意義な研修でした。 はじめに、公共交通に漂うオワコン感として、それなら、公共交通はやめて、みんなクルマにすればいいじゃないか、便利であると。 しかし、クルマは便利ではあるが、高齢者の免許返納や、クルマの家計負担など、若者がクルマを持てない現実問題として、費用の負担が大きいというマイナス面の指摘もありました。 本題の「地方における公共交通の役割」として、①3割の人はクルマを使えないこと。免許を持てないこども、高校生、免許を返納した人、身体的・経済的理由、けがや病気など ②クルマが使えないと行先の選択肢が減ること③通学ができない地域は消滅する④送迎を美談にして良いのか？ この④については、加東市はまさに日常生活に散在する送迎の負担（夫の通勤、妻の買い物、こどもの通学、部活、習い事、父母・祖父母の通院）はかなり多いと感じます。特に母親、女性の負担が非常に多い。 かつて、介護が女性の、嫁役割として、押し付けられてきた歴史がありました。そのため介護保険制度が出来て、女性が自分の時間を介護に費やさなくてもよいようになりました。送迎も主に女性の負担になっている現実があります。講師の「おでかけしやすい」地域でなければ消滅する。「おでかけ」は人生を豊かにする。という持論はまさにその通りだと思いました。今はネットでなんでも買える時代ですが、やはり、買い物にでかける方が話をしたり、見たり聞いたり、外出することで楽しさにつながることは多いと思います。地方の公共交通にはやはり投資という観点が必要、黒字をめざすなら、そもそも行政でなく民間がやればいい話。この点も全くその通りだと思いました。今まで自分の中で公共交通をどのようにとらえたらよいのか、ぼやけていた部分がくっきりとはっきりと鮮明になりました。今後の加東市の公共交通を考えていく上で、データに基づき、実際の自治体の具体例など、研究されておられるお話を聞き、大変ためになる研修でした。今後活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

研 修 報 告 書

総務文教常任委員会委員 大久保 忠 義

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「地域公共交通について」 講 師：合同会社萬創社 代表社員 福 本 雅 之 氏
日 時	令和 6 年 7 月 9 日（火） 午後 1 時 3 0 分～
場 所	加東市役所 第 1 委員会室
研修の感想	地域公共交通を含む公共交通は、免許証返納者を含む高齢者などの交通弱者には必要不可欠であり、いかに現状の交通環境の維持や交通過疎地の整備が課題であると感じてきた。しかし、講演の中での年齢別の免許保有率を見ると、15 年前と比較すると高齢者の免許保有率が飛躍的に高くなっており、特に女性では顕著である傾向が確認できた。 神戸市などの都市部地域では、バスや電車がいつでもどこに行くにも気軽の利用できるが、加東市では、いくら公共交通を利用しようとしても便利に利用する事が難しく、むしろ不便が先に立ち利用を控えてしまう。車社会になれた人からみれば、自家用車はドア to ドアで気軽で一番便利な乗り物なのだと再認識した。 そのように考えれば、免許を持ってない子どもや高校生・免許返納者など高齢者・身体的にハンディキャップのある人などが、どのようにすれば便利に利用できるかを考える方が普通のかたの考え方のように思える。 現在の社会では、仕事がなければ web ネットにて大概の物は家に配達をされるので、外出しなくても生活は十分に出来るが、健康寿命を延ばしてもらうには、外出して歩き会話をしてもらう事も必要であると考えます。 地域公共交通を有効に利用して、お出かけしやすい地域づくりをする事が必要と講義を頂き、また、地域公共交通は地域の経済を回す大きな役割がある事がわかった。 加東市では、デマンド交通の実証実験も実施されています。非常に利用者が利用しやすいですが、運送効率の悪さから経費が掛かるデメリットもありますが、継続可能なサービスとしての工夫が必要であると感じた。

研修報告書

総務文教常任委員会委員 中 村 龍 治

研修会名	総務文教常任委員会研修会 テーマ：「地域公共交通について」 議 師：合同会社萬創社 代表社員 福本雅之氏
日 時	令和 6 年 7 月 9 日（火） 午後 1 時 30 分～
場 所	加東市役所 第 1 委員会室
研修の感想	高齢者の運転について地域別（町と田舎）の違いがあることを聞き公共交通は減り車を運転出来ないと生活が出来ないと言う事は重大な課題だと感じた。 また、地域に対する投資と考えれば公共交通を公的に支えることが合理的なことや採算性と効率性を混同しないところから行政が取り組む意味が無いと言うお話からも市民の為の公共交通施策の重大性を感じながら、今後少しでも良い施策を協議出来るようにしたい。